

2. 草刈機（刈払機、自走式草刈機）

（1）作業姿勢不安定による事故

2. 草刈機・刈払機 （1）作業姿勢不安定による事故

8

水田畦畔の草刈時に、肩掛けを外し刈払機本体を手で支え、用水路の水面近くの畦の法面の雑草を、腰を曲げてしゃくり上げるような形で刈っていて、右側に振ったとき長靴の上から刈刃が当たり、足を切った。

（平成15年8月下旬 12時頃 男性・28歳）

事故の概況

自宅から車で5分程度の水田畦畔の草刈を、午前8時30分頃から昼食も取らず行っていた。

肩掛けベルトを外し刈払機本体の丸軸を刈刃から70cmの部分を手で支えて、用水路の水面近くの畦の法面の雑草を腰を曲げてしゃくり上げるような形で刈っていた。刈払機を右側に振ったときに長靴の上から刈刃が当たり、右足の親指付近を3cm程切った。切ったとき、最初は足が切れているのは気付かなかったが、長靴が切れており靴下が出ていた。

家に軽トラックで帰り、靴を脱いで右足の親指付近が切れているのを確認して、車で10～15分の総合病院の救急外来へ行った。麻酔が痛かったが、すぐに縫合。1～2週間通院、消毒のため2週間通院（週1、2回）で抜糸し、現在は完治。



回転刃を担ぐような姿勢で、かがみ込んでしゃくり上げるように不安定な姿勢で刈っていて、振ったとき足に当たった。

事故原因と対策

1週間前まで他の病気（扁桃腺炎）で入院していて、体力が落ちていた。草も伸びきっていたので、遅れを挽回しようとして気持ちにかなり焦りがあった。

朝からの連続作業で疲れもあった。現場は用水路だったので、幅も高さもあまりなかった。水は抜いていたが、その場所だけ水がたまっていた。刈刃が水に入ったときに刃が反動でキックバックしたような感じになった。事故後、回転刃が怖くなり、レシプロ型の畦刈専用機に替えた。免許を取る必要がある。

(2) 乗用草刈機の事故

2. 草刈機 (2) 乗用草刈機の事故

9

川沿いのぶどう園を乗用草刈り機で草刈作業中、操作を誤り機械ごと5.1m下の川に転落した。
(平成19年8月下旬 15時頃 男性・60歳)

事故の概況

川沿いのぶどう園を10年くらい使った乗用草刈り機で草刈作業中、園地の川に近い傾斜部分の草が少し残っていたので、まっすぐバックは危ないと思い、45度方向に斜めにゆっくりバックして草刈をしたが、運転操作を誤り機械と一緒に5.1m下の川に転落し機械の下敷きになった。機械は180度反転、エンジンが止まり刃は空転していた。

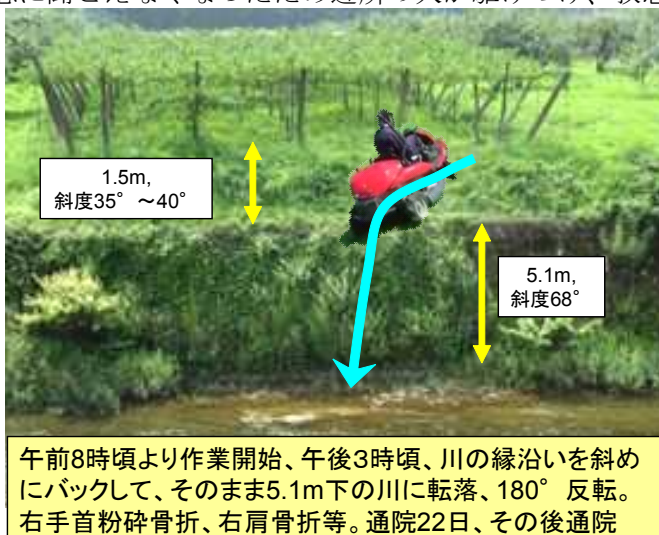
川には水が有り浮力は少しあった。顔は水の中に入って一時意識を失っていたが、すぐ顔は上げた。めまいがしてふらふらした。

バックしたときは後ろに傾斜していたためか、シートから出られなかった。クラッチとブレーキが同じレバーになっている機種だった。ブレーキが甘かったため、機械が止まりきれなかった。

週3回介護施設の送迎を行っており、日中はボイラー、病院のデイサービス、雑用を行っているが、作業当日は休日だったので、いつもより気合いを入れて8:00頃から作業していて、最後のところだった。物が飛ぶので奥さんは近くにおらず、単独で作業していた。

川に入水して気を失ったが、気がついてから自力で川(川幅32m)を渡り(約50~60m)、対岸から道路に上がった。機械音が急に聞こえなくなったため近所の人々が駆けつけ、救急車で病院に搬送された。診断の結果、右腕と右肩の骨折、膝部の打撲(テープ)、頭部の切創(マックスで縫合)で、入院を22日間(8月25日~9月10日)、その後1~2回通院した。

手首のところは骨が粉々になったので、金属を入れた。頭頂部の前後方向に裂傷を負ったので、寒くなると感覚がなくなる。肩は手術できなかった。肩関節は腕を上げ続けると疲れる。



事故原因と対策

その頃、朝夕に病院の患者送迎車の運転手を行っていたが、その日は休みだったので草刈りをはかどらせようと朝の8時頃から焦ってやっていたため睡眠不足気味であった。

改善策としては、川岸ぎりぎりのところまでは、乗用機械を入れないで、刈払機で作業を行っている。乗用草刈機はブレーキがしっかり効くようにしてほしい。